

千波湖内に入って魚たちを調べました！

～第5回千波湖環境学習会～

当協会では、市民が身近に自然とふれあえる公園として整備されている千波湖を中心として、「千波湖環境学習会」を水戸市との協働事業として開催してきました。今年度も計10回の協働事業として開催を計画しており、7月29日に、第5回目として、「千波湖内に入って魚たちを調べよう」と題し、岸辺の魚やエビカニ等の甲殻類などを実際に採取し、どのような生物が生息しているのか調べました。千波湖の西側（放流橋から西側）は、生物類の採取や魚釣りが禁止されており、許可がなければ生物の採取ができない区域のため、例年人気の高い学習会となっています。

今回は、前日から当日未明にかけて台風12号の影響により、本県にも風雨の影響がありました。開始時刻には青空が広がり、97名の参加者が夏空の下、元気に生物採取を行いました。



罾回収チーム



手網採捕チーム

今回の学習会では、千波湖に入る際の注意事項の説明の後、採捕網と観察容器を配付し、手網採取チームと罾回収チームに別れ、生物採取を行いました。

罾回収チームは、小学校低学年の参加者を対象に、ライフジャケットを着用のうえ、ボートに乗ってもらい、前日に仕掛けた罾をスタッフと一緒に引き上げました。罾には、モツゴやテナガエビ等がかかっており、罾をあげるたびに歓声が上がっていました。

手網採取チームは、小学校高学年の参加者を中心に配付された手網を駆使し、実際に千波湖に入り生物採取を実践してもらいました。採捕網を駆使して、モツゴ、ヨシノボリ等の小魚や、テナガエビ等の甲殻類を罾に負けないくらい採取していました。



採取が終了した後、罝に掛かったり参加者が採取した生き物を水槽に集め、捕れた生物の観察を行いました。台風一過の影響なのか、例年に比べて種類、個体数共に少ない採取量となり、例年採取されていたフナ、スジエビ、モクズガニ等の在来種、毎年みられたブラックバス、ブルーギル、ミシシippアカミミガメ等の外来種は採捕されませんでした。モツゴ・タモロコ・ヨシノボリなどの魚類や、テナガエビがたくさん水槽の中に集められ、千波湖にはまだまだ自然が残っていることが確認されました。

その後、採取された生物や写真パネルを使い、参加した子どもたちを対象に名称当てクイズを実施し、正解者には協賛企業様より提供された景品を配付しましたが、各問ともに元気のよい答えが返ってきて、魚類や甲殻類への関心の深さを実感できるものとなりました。

今回採取された生物

No.	種類		
1	魚類	在来種	モツゴ
2			タモロコ
3			ヨシノボリ
4			ヌマチチブ
5			ウキゴリ
6	甲殻類	在来種	テナガエビ

最後になりますが、暑い中びしょびしょになりながら生物採取に協力いただいた参加者の皆様、職場体験学習としてスタッフ参加された、飯富中学校の「若山小鈴」様、ジュースを提供いただいたいばらき乳業株式会社様、クイズ景品を提供いただいた株式会社バンダイナムコホールディングス様、ぺんてる株式会社様、水質浄化剤の効果実演を披露して頂いた株式会社いばらき環境改善様、その他協力頂いた皆様に感謝申し上げます。